

競 技 上 の 注 意

審判長 濱 部 裕 子

現行の日本卓球ルール(ラージボール卓球・競技大会ルール)及び四国ラージボール卓球大会競技運営細則を適用する。

1 ボール・ラケット・ラバーについて

- (1) ボールはニッタクのラージ3スタークリーン、VICTASのVP44+3スターを準備する。
- (2) ラケットにはJ. T. T. A. A. の刻印および公認メーカーを示すマークがなくてはならない。
- (3) ラバーはJ T T AまたはI T T Fが公認した表ソフトラバーのみ使用できるが、粒高ラバーは使用できない。

2 競技服装について

- (1) 競技服装は、J T T Aが公認したものを着用すること。今回はダブルスのペア及び団体戦の服装(ユニフォーム)の組み合わせは、任意とし、異なっても認める。
- (2) 選手は必ず(公財)日本卓球協会指定のゼッケン(令和7年度)を背中に着用すること。

3 サービスについて

- (1) サービスは、サーバーがフリーハンドの手のひらを開いて静止させ、その上にボールをつかむことなく自由に転がる状態で開始されなければならない。(2～3秒静止させるサービスも可)
- (2) サーバーは、その後すぐに、ボールがフリーハンドの手のひらから離れた後、16cm以上上昇し打球される前になにもものにも触れず落下するように、ボールに回転を与えることなくほぼ垂直にボールを投げ上げなければならない。
- (3) サービスが開始されてからボールが打たれるまでの間、ボールは常にプレーイングサーフェスよりも高い位置で、かつサーバー側のエンドラインの後方にななければならない。またその間、サーバーまたはダブルスのパートナーの体の一部または着用している物でボールをレシーバーから隠してはならない。

4 競技方法について

- (1) 開始後8分を経過した場合は促進ルールが適用される。ただし、ポイントスコアの合計が18ポイントに達した場合には適用されない。
- (2) タオルの使用は、各ゲームの開始から6ポイント毎、およびマッチの勝敗を決する最終ゲームにおけるエンドの交替時に認められる。
- (3) マッチの開始前の練習時間及びゲームとゲームの間の休憩時間は1分以内とする。

5 その他

- (1) 団体戦・個人戦の審判は、予選リーグは相互審判または指定審判で行う。また、順位別トーナメントの初戦は、相互審判で行う。個人戦は原則、若番側から審判を出す。(同じ所属(県)等の選手に審判を依頼する)それ以降の試合は敗者(チーム)審判とする。ただし、決勝1・2位トーナメントの準決勝からは開催県で審判を行う。
団体戦・個人戦の決勝3・4位トーナメントも、開催県の運営で実施をする。
- (2) 試合進行については、タイムテーブルに準じて行う。